

道の友

金光教
横須賀教会
発行
H22.11.03
No. 273号

平成二十二年
度
教会信心
実践目標

「信心即生活 生活即信心」
「おかげ探しの信心をしよう」

常日頃の こころがけ



巴波教会で教話奉仕中の教会長

去る十月十日の本部広前生神
金光大神大祭では、図らずも、
祭典前の教話のご用を頂くこと
となりました。祭場でお話をさ
せて頂くのは初めてのことであ
り、当然のことながら、願いの
ままに御用を勤めさせて頂くこ
とができますようにと、神様に
お願いさせて頂きながらの参拝
でした。ところが、参拝の一週
間ほど前からの風邪がこじれ
て、祭典前日の九日は最悪の状
態となり、またとない大切な教
話の御用に、どうぞ支障があり
ませんようにと祈りつつ、お詫
びを申しながら来し方をいろいろ
と思ひ浮かべていました。

ここ数ヶ月、どうしても取り
組まねばならない御用があり、
夜を徹しての日々が続き、睡眠
も三・四時間という不規則な生
活であったことや、それもこれ
も、常日頃のご無礼不行き届き
が重なったことであり、私自
身の心がけの悪さからであった
と気付かせて頂きました。御用
を通して、大切なお気付けを頂
くことができました。

当日は、共に参拝された信徒
の方々のお祈り添えをいただ
き、風邪声ながら、なんとか御
用を勤めさせて頂くことができました。
今後の戒めを頂いた有
り難い本部参拝でした。

「神様に

心を向ける」

在籍教師

木本 雅史
まさ ふみ

(平成二十一年五月二十三日 於小田原教会)

今日は立教百五十年の御祭りに教話のご用を頂きまして、大変に有り難いなあと感じさせてくださいありがとうございます。「神様に心を向ける」という講題でお話をさせていただきます。宜しくお願ひいたします。

実は、今日は緊張しながら、十二時過ぎに小田原駅に着かせていただきました。それで時間もあるし、駅前の「ニューロマ」という喫茶店でコーヒーを頂いたら、とても美味しいので

す。父と一緒にでしたから、「お父さん、このコーヒー美味しいね、きつとここで挽いているんだよ」と申しまして、あんまり美味しかったものですから、店員さんに声をかけて、「このコーヒーは、美味しいですね！ここで挽いているんですか？」と聞きましたら、店員さんは、「いえ、ここで挽いていません。粉なんですけど」と言われまして、ちよつと通ぶつて恥をかいてしまいました。

この頃、純喫茶というんですか、そういう店がどんどん減っていますね。スターバックスコーヒーですとか、スタンドみたいなのは増えていきますけど。私は教師になる前に飲食業の仕事を経年してしまして、飲食関係に知り合いが多いんです。戦後の闇市の頃からやっている、アマンドという大きい喫茶

店があるんです。その店長さんと知り合いで、「木本さん、最近お客さんが入らなくて……」と言うんですね。「どうしたんですか？こんないい場所にあつて」と言いますと、「商売敵がいっぱいいいてね」と言います。「どんな商売敵ですか？スターバックスですか？」「いやいや違うんですよ……」と。

皆さん、どこだと思えますか？それはね、電話会社なんです。なぜ？と思うでしょ？待ち合わせ場所がいらなくなつたからなんです。以前は喫茶店で待ち合わせをしましたけど、いまは「どこ？」「今ね、もうすぐ駅着くから、改札出たところ、そこで待つて」というふうに、待ち合わせ場所がいらなくなつたんですね。やっぱり、喫茶店も景気が悪くなつたそうです。それを聞いて私はびっくりし

ました。皆さん携帯を持っていきますよね。こういう便利な道具ができる、人間の生活がガラツと変わってしまうんですね。実際、便利な道具ができる、通常の生活が変わります。そうすると生き方が変わり、人生が変わってしまいます。

今の世の中、神様が信じられないという人が非常に多くなっています。年々信徒が減ってきています。これは、金光教だけではなく、キリスト教も仏教もみんなそうなのです。世の中の生活が便利で行き届いてしまうから、神様に心が向かうという修行がだんだんできなくなってしまうのです。

それでは、人間が助かっているのかというとそうでもないんですね、人間の自殺者が三万人を超えています。十一年連続です。世の中は便利になっても、

人間はそれほど豊かになっっていないんです。便利な世の中でも人間の難儀はいつでもあるんですね。病気、怪我、事故、お金のこと、人間関係。これは、人間の生活がどんなに便利になっても消えない普遍の問題なのです。

ところが、こういう問題にぶつかつたときに、神様を放してしまつていると、絶望ぜつぼうしかないんです。こういう人に神様の有り難い話を伝えたいと思うのが、私の切なる願いなのです。と、申しますのも、私は今は独身ですが、以前は結婚して、まして、妻を自殺で失つております。

妻はうつ病という病をかかえておりまして、その他にも身体に病気があり、薬を飲んでいて、その薬には、子供に奇形が

生まれしてしまう副作用がありました。ですから、子宝を頂くことができず、妻はそのことを非常に気にしていました。「あなたは長男で、子ども好きなのに、子どもを生んであげられない」と、ずっと自分のことを責めておりまして、自分が私にとつて重荷であると思ひ込んでしまつたんです。そして、彼女なりの方法で、私を幸せにしようと思つたんでしようね。自分で命を絶つてしまいました。

ところが、彼女はかけがえない人生の伴侶でしたから、私は生きる希望を失いました。生きていても楽しいことなど何も無く、いるはずのない妻の面影を探し、泣き暮らす日々。私も死のうと思ひました。何度そう思つたか分かりませんが、私が愛する人を失つた苦しみを、今度は両親に負わせてしまう。ま

た、間接的に夫を殺すことにな
る妻の立場はどうなるだろう？
と考えると、私は死ぬこともで
きません。生き地獄です。想像
を絶する程苦しかったですね。



学院在学時の雅史氏、前列中央（H20年10月撮影）

その絶望のどん底で、私は神
様におすがりさせて頂きまし
た。亡くなった妻の御霊を立ち

行かせることができるのは、神
様だけなのです。生まれて初め
て、全身全霊で神様に向かわせ
て頂いたのです。それから、私
は金光教の教師の道を目指すよ
うになり、難儀な氏子を助ける
御用に生涯をお仕えさせていただ
こう。と願わせていただいた
で、本日こうしてあまりあるお
役を頂き、おかげを蒙らせてい
ただきました。

そんなわけで、何日も泣き続
けて生活しておりましたが、
私の父であります横須賀教会長
の姿、妻の御霊を祀る真摯な姿
を見て、世の中にはこんなに尊
いお道があるのかと今更ながら
に感激しまして、学院卒業後
は、親教会の芝教会へ御用に行
かせて頂いております。

私は、信心のおかげというの
は、テレビの電波に似ていると
思うのです。皆さん、朝起き

て、テレビのリモコンをつけ
て、テレビが点かなかつたら、
どうなさいますか？。おそら
く、リモコンに電池が入ってい
るかな？と確かめられると思
います。それで電池が入ってい
と分かったら、次は、テレビの
電源が入っているかを確かめま
すね。それでも点かなかつた
ら、テレビのコンセントを確か
めるでしょう。今度は、プレー
カーやヒューズを確かめますよ
ね。次は、停電かなと確かめま
すね。誰もいきなり、テレビ局
から電波が来ないと考える人
はいないと思います。

でも、考えてみて下さい。こ
れはすごく不思議なことです。
電波は見えない、手で触れな
い、音も聞こえない、感じな
い、なのに皆さんは、ちゃんと
電波が飛んでいることを知って
いる。電波の存在を信じてい

る。人間は、目に見えないものは信じられないと言いながら、実はそうでもないんです。目に見える、見えないというのは、実はそれほど大した問題ではないのです。

それでは、電波の存在はみんな信じているのに、なぜ同じように、目に見えない、聞こえないというだけで、神様のことは信じられないのかな？と思うのです。私が思うには、神様というのは、まず無条件に信じないといけない。これは信心のない人から見ると、賭けと一緒なんです。おかげが頂けるかどうか、これは最初に信じないと始まらない。そこが現代の人々にとっては難しいことになっていくのではないかと思うのです。

例えば、オウムの事件や自爆テロ、また靈感商法やカルトなど、そういったものが宗教のマ

イナスイメーじとなり、科学文明の発達と相まって宗教離れが進み、人々の神様に向かう心をだんだん弱くしているのでは？と思います。はつきりとした信仰を持たない方々は、神様がどんなにお働き下さっても、「たまたま」とか、「偶然」と考えて、頂いているおかげに、眼を向けなくなってしまう。これではおかげを頂けないと思うのです。これが人間の難儀の始まりではないかと思えます。

電波というのは、アンテナを立てているお宅にも、立ててないお宅にも飛んでいます。しかし、テレビの電波を受けるためには、アンテナを張って正しい方向へ向けなければなりません。私はアンテナを立てるといふことが信心をさせて頂くといふことで、正しい方向へ向けるということがお取次を頂くとい

うことだと思えます。ですから、私たち信心をするものは、できるだけ教会へ足を運ばせていただいで、御教えを頂き、常にアンテナの方向を微調整しなくてはいけない。これが神様に心を向けるということではないかと思えます。

信心の長い人の中には、勝手信心になってしまふ人もいます。こうなると、立派なアンテナが立っていても、方向が間違っているからおかげが頂けません。それでいて「こんなに信心しているのになぜ？」と悩むのです。そうならないためにも、常に御教えを頂き、正しく理解させていただくことが重要になってくるのではないかと思えます。

私は、修行を始めた頃、神様の声が聞きたくて聞きたくて仕方ありませんでした。テレビで

やる江原さんのスピリチュアルの、ああいった番組の視聴率がすごく高いそうです。大いなるものと交流をしたいという願いがどこかにあるんでしょうね。私もありました。妻と直に話をしたかった。御霊として助かっているかどうか、妻からじかに聞いて安心したかった。

ですから学院に居た時も、いつもお願いしておりました。「神様、妻の声が聞こえるようにして下さい。」年中そんな御祈念ばかりしていました。そうしまして、ヒントを求めて直信の先生が残された書物を片っ端から読みました。そうしたら、ある日見つけました。

二代金光四神様のところに、ある方がお参りになられて、「金光様、どうしたら神様の声が聞こえるようになりますでしょうか」とお伺いをたてました

ところ、四神様は、「自分のことは差し置いて、人のことだけを祈れるようになれば聞こえるようになります」とご理解下さったそうです。「これだ」と思いました。さっそく実践致しました。そうしたら、三ヶ月を過ぎた頃から、私の周りにだんだん不思議なことが起こるようになってきました。



城奥様祖教

どうしても知りたいた事があつて御祈念をしていると、お昼の教話の時間にふと答えが頂けるとか、これはどういうことなのかと悩んでいると、たまたま同

じことを話しているところに通りかかったり、逢いたいと思っていた人に、たまたま街で巡り会うことが起きてくる。

これは、信心のない人にとつては「偶然」とか「たまたま」なんです。実はこれはとんでもない確率なんです。たまたまそこに通りかかる確率とか話しが出てくる確率は、天文学的な確率になってしまふ。だから、そこにちゃんとした御神意、お働きが生まれている。しかし、常日頃からそちらにアンテナを向けていないと、たまたま片付けてしまふんです。「偶然」「たまたま」という言葉は、信心にとつては本当に邪魔な言葉だと思えます。

私は、神様に心を向けるといふことは、日常の私が聞き漏らしている神様の言葉やお働きに心を向けていくことだと思いま

す。たまたまと思つていたことに敢えて眼を向けることを修行として取り組み始めたある日、こんな出来事がありました。

学院の夏期在籍教会実習で横須賀教会に帰った時、奥城に参つて、亡くなつた先代教会長と妻にも報告をさせてもらいたいと願いを立てました。黒い着物、羽織に袴の正装で、奥城まで歩いて参拝させて頂きたいと願い、教会から奥城まで歩いて一時間かかりますが、三日間雨で四日目によろやく雨が上がりつて、参拝させて頂きました。

雨の後ですから、葉っぱがたくさん落ちています。花も枯れているので替えて、お掃除をさせて頂き、御祈念をして帰る時、お供えしてあるお水玉を見た時、ふと「この水が飲めるか？」という声が聞こえた気が

しました。それで水玉の中を見てみたら備え付けの湯のみですから、洗つたつもりでしたが底の方に苔がついておりました。私は「この湯飲みから水は頂けない」と思いました。お供えしたお水です。皆様方も、お客様に苔の生えた湯飲みでお茶は出しませんか？私はそれを御霊様にお供えしていたわけです。ゾツとして、急いでお水玉を洗つて、水を一口頂いてから、改めてお供え致しました。

心のなかに、「自分で飲めないものをお供えするな！それはお供えとは言わない！」と声が聞こえてきました。それは亡くなられた先代教会長の声でした。花瓶の方も苔が生えていましたので、水を替えて一口飲み、再度お詫びの御祈念をさせて頂きました。

帰り道にガソリンスタンドが

ありまして、そこを通りかかった時に、有線放送が流れていました。ちょうど生前、妻が大好きだった曲の、サビの部分に差しかかったところでした。奥城での出来事の後ですから、私はそれを偶然とは思いませんでした。「ああ、そうか！お参りのお礼に妻の御霊が“こんな事しかできなくてごめんね”と、贈り物をしてくれたんだ」と分かったんです。

起こることを偶然と取るか、神様・御霊様のお働きと取らせて頂くのかで、私どもの信心生活は大きく変わってくると思います。本教の信心は「話を聞いて助かる道である」と、教祖様は御教え下さっています。

毎日を油断せず、教会に足を運び、アンテナの位置を正しい方向に向ける。勝手解釈をしない。神様に心を向ける。それが

一番大事なのではないか。それができたら、次はアンテナの立っていない方、教外の方にこのお道を説き、アンテナを立てることを、一人でも難儀な方に勧めていく、これが氏子の努めではないかと感じ、信心の稽古をさせて頂いております。本日は教話の御用を頂き有うございました。

この稿は、平成21年5月23日、小田原教会、立教150年生神金光大神大祭での教話内容に基づき、一部修正させていただきます。

教会長先生の御本部での教話は、金光教本部のホームページに動画で紹介されています。また、当教会のホームページ「金光教について」から同ページにアクセスできます。ネット環境のない方は、教会にDVD・音声のみのCDもありま

十一月教会行事予定

- 1日 大祭奉迎御用奉仕
- 2日 大祭奉迎御用奉仕
- 3日 午後1時30分
生神金光大神大祭 奉行
- 9日 午後1時30分
祖霊・金光大神月例祭 執行
- 14日 芝親教会大祭 参列
- 20日 午後1時30分
天地金乃神月例祭 執行
- 21日 巴波教会大祭 参列
- 23日 小田原教会大祭 参列
- 27日 午後1時～3時
共励会・「金光大神」
- 28日 藤沢教会大祭 参列

十二月教会行事予定

- 1日 御用奉仕の日
- 4日 午後1時30分
祖霊月例祭 執行
- 9日 午後1時30分
金光大神月例祭 執行
- 11日 午後1時
第6回 教会役員会
- 12日～13日
布教功労者報徳祭 参拝
- 14日 第4回 連合会教師会
於、鎌倉
- 15日 フォーラム会議 出席
- 19日 午後1時30分
納祭典 執行
- 30日 午後1時30分
越年祭 執行

